

大岡の風2月



令和8年1月30日
横浜市立大岡小学校
TEL (711) 0818
FAX (713) 3563

心の鬼退治

副校長 井口 さと子

暦の上では立春を迎えますが、まだまだ寒さが続く季節です。そんな中でも、校庭には少しずつ春の気配が感じられるようになってきました。2月は、子どもたちが1年間の学びを振り返り、次の学年に向けて気持ちを整えていく大切な時期でもあります。授業をのぞくと、「ここができるようになったよ。」「前より分かるようになったよ。」と、自分の成長を確かめ、自覚しながら学習に取り組む姿が多く見られるようになりました。また、友だちの意見を聞いて新しい気づきを得たり、「もっとこうしたい。こんな姿になりたい。」と考え、今の自分自身を見つめて、自分なりの課題に向き合ったりと、学年のまとめにふさわしい姿が随所に見られ、子どもたちの大きな成長を実感しています。今年度の残りの時間を大切にしながら、次の学年への準備を進めていきたいと思います。

さて、2月3日は節分です。節分は季節の分かれ目である立春を前に、1年の無病息災を願って豆まきを行う日本の伝統行事です。昔の日本では、季節の変わり目には病気や災害など、よくない出来事が起こりやすいと考えられていました。その目に見えない不安や恐れを形にしたものが「鬼」です。人びとが、災いの源を「鬼」として表し、追い払うことで安心して生活できるよう願ってきた行事が各地にたくさんあると伝えられています。

節分で豆まきを行う習慣も、この考え方に由来しています。地域によって様々な掛け声がありますが、豆をまいて「鬼」を追い出すことは、家に入ってこようとする悪いものを退け、1年間の無病息災を祈る意味が込められています。このように、鬼は昔の人びとが安心して暮らすために作り出した「悪いものの象徴」であり、伝統行事の中にもその考え方が受け継がれているものも多いのです。

現代では鬼への解釈はより広がり、単純な“悪者”としてではなく、多様な姿として描かれるようになりました。また、鬼を自分の中にある直したいところや弱さを前向きに見つめるための象徴として扱うこともあります。「なまけ鬼」「すぐ怒る鬼」「わがまま鬼」「あきらめ鬼」など自分の中にいる、追い出したい「心の鬼」を考え、新しい季節を前向きに迎えようとするよい機会と捉える考え方です。節分は、単なる行事ではなく、子どもたちが自分の心と向き合う大切な機会にもなります。ぜひご家庭でも、「心の鬼」について話し合ってみてください。「怒りの鬼」「わがままの鬼」…どんな鬼を追い出したいですか。そして、どんな福を招きたいですか。そのために、何に心がけ、どのように行動に移していきますか。子どもたちが自分の心と向き合う時間は、成長の大切な一歩になります。寒さの中にも春の兆しが見えるこの季節、心の中にも温かい春を迎えられるよう、「心の鬼退治」をしていきたいものです。

